

NEJM ジャーナルウォッチ June 15 2019 general medicine より

No 1 大居慎治

### 1) 詐欺に遭いやすいのは認知症の早期サインか？

詐欺に気がつかないことは AD や MCI の発症と関連あり。

原題 : Scam Awareness Related to Incident Alzheimer Dementia and Mild Cognitive Impairment

Boyle PA et al. Ann Intern Med 21 May 2019 (e-pub)

(<https://doi.org/10.7326/M18-2711>)

認知症のない約 1000 人（シカゴ在住、平均 81 歳）対象に、年 1 回認知テストを含む臨床的な評価を平均 6 年間行ったコホート研究です。セールスへの寛容性、リスクある投資への興味、年齢相応の脆弱性を自覚しているかを質問表で調べランク付けしました。

結果は、詐欺に気がつかないことはアルツハイマー病 (AD)、軽度認知障害 (MCI) 発症と有意に関連していたそうです（ハザード比 1.5）。また、脳の剖検で有意に  $\beta$  アミロイドの沈着が多かったとのこと。

#### コメント

詐欺にあった高齢者は将来 AD、MCI になりやすいと言えますが、個人の発症の予測になるとまでは言えません。実際の詐欺被害ともリンクしていないようですが、詐欺被害防止の教育には使えるかもしれません。

## 2) トラネキサム酸吸入は中等量までの喀血に対する新たな治療になりうるか？

トラネキサム酸吸入は短期での症状緩和をもたらし、侵襲性は少なく、長期の再燃も少ないことが示された。

原題：Inhaled tranexamic acid for hemoptysis treatment

Wand O et al. Chest 2018 Dec; 154:1379

喀血にトラネキサム酸 (TA) を全身投与した研究があるが、吸入については研究されていない。イスラエルの研究者は大量ではない喀血 (200m 以下) で入院した 47 人の成人患者をランダム化し、TA 吸入群とプラセボ (生食) 吸入群に分けて 5 日間投与した (二重盲検)。TA 吸入薬は静注用 TA を院内で製剤化したものである。喀血の主な原因は気管支拡張症、悪性腫瘍、感染症であった。

TA 吸入群は 5 日以内の症状消失 (NNT はなんと 6!)、より侵襲のある手技の実施率、入院期間、1 年以内の喀血の再燃のいずれも有意に優れていた。副作用は両群ともみられなかったとのことである。

コメント：

地域医療の現場で目にしたことがある。大規模試験ではないが、実際にこの治療が可能であることを示した初めてのランダム化試験。